



第12回 JOTO歩こう会

向島百花園から浅草、横川まで

昨年11月9日(日)、第12回歩こう会は、墨田区内の北西部、向島界隈を巡った。午前10時、東武伊勢崎線の東向島(旧玉の井)に集合、18名(雨水会6名)の参加。体操の後スタート、駅より西に歩いたところに向島百花園がある。四季折々、多種多様な植物が所狭しと点在している。俳句の碑などを眺みながら、園内を30分くらい散策した。すぐ近くに白鬚神社もあり参拝。そこから墨堤通りへ出て、南へと歩を進める。途中、鳩の街を抜けて言問まで歩いた。名物の「言問団子」屋の前で記念撮影。長命寺の

「さくら餅」屋を横手に桜橋へと出る。川面の風も快く、平山郁夫画伯の鶴のモニュメントも涼しげに見える。ここで一服してから押上駅へと行く。隣接地には、東京スカイツリー(610メートル)の建設現場が広がり、2012年の完成が楽しみだ。そこから浅草通りを渡り、大横川親水公園へと入る。運河の跡地だったので、公園は細長い。左右が木々に包まれ、緑の壁となって都会の喧騒が消されていた。フリーマーケットもやっていた。錦糸町に着いたのは12時半、約6キロの楽しいウォークだった。 米津 照男(S48・経営卒)

石田龍泉さん

—第1回現代書展に特別出品—



校友で書家の石田龍泉(直幸)さんは、第1回葛飾現代書展に左の書を特別出品した。氏は同展実行委員会の顧問として活躍している。第1回展は、昨年11月20日～26日、かつしかシンフォニービルズギャラリーで開催、力強い隷書を出品し、話題を集めていた。

内山園英さん

—第25回読書法展に出品—



校友で読書法展の評議員である内山園英(吉子)さんは、第25回読書法展に出品。昨年8月23日、国立新美術館で校友数人と鑑賞。内山さんは優美な、かな作品を出品していた。

モンゴルに魅せられて



2002年の初渡蒙古以来、モンゴルの現地に足を踏み入れること40数回。なぜ私はこんなにモンゴルに魅入られてしまったのか?理由は…一口には説明できそうもありません。しかし、はっきりしているのは、私にとってモンゴルはなぜか居心地が良く懐かしく思える不思議な国だということ。その良さは、“癒し”というべきものかもしれない。そして、モンゴル国の有志と共にモンゴルの発展を願って、モンゴル国の天然で癒し的な商材を日本全国に広めるべく、楽天市場に「モンゴリア」を開店したわけです。 水野盟三(H19・院国際観光)

高田和生さんの取締役就任をみんなで祝う

わが城東支部のホープ高田和生さん(S47・経営卒)が京成電鉄の取締役に就任され、京成ストア社長と京成グループの中核に入られた。1部上場企業の役員ということで大変名誉でありおめでたいことと、城東支部では雨水会の協力を得てみんなで祝いしようと、9月21日、柴又の川千家で「祝う会」を開いた。

松岡正俊氏(S47・建築卒)の司会で幕を開け、開会の挨拶と経歴の紹介を大滝前支部長からあり、浅窪城東支部長、岩田雨水会支部長から祝辞をいただいた。川谷内勝一氏(S33・院中哲卒)の発声によりみんなで乾杯、めでたい、良かったねと、まずは懇談、続いてお祝いの歌に入った。今井杏羽子さん(S44・国文卒)のプロの歌を聞かせていただき、会場も和やかになったところで全員のスピーチとなり、お祝いの言葉と記念品、花束を贈った。

ここで高田さんからお礼の言葉があったが、経営不振の関連会社を数社廻られたようで、たいへんな苦労をして立て直されたことは、高田さんの勲章となって今日があるものと思われた。最後に福田武明氏(S42・法律卒)のリードでエールを送り、武田副支部長の開会の言葉でお開きとなり、今後ますますのご活躍を祈念しつつ散会となった。 照井義道(S35・経済卒)



最後に福田武明氏(S42・法律卒)のリードでエールを送り、武田副支部長の開会の言葉でお開きとなり、今後ますますのご活躍を祈念しつつ散会となった。



お祝いの歌を唄う今井さん(左)と、花束贈呈する沖山さん(上)

雨水会文学鑑賞会に参加して 千駄木、根津界隈

今回の雨水会文学鑑賞会は千駄木、根津界隈である。昨年9月27日(土)、井上円了記念館11時45分集合。総勢40名。校友会からは今は亡き田中富四郎常任顧問、射手副支部長、そして私の3人が参加した。まずは参加者にお茶のペットボトルと500円玉が渡される。何だと思ったら大学内食堂での食事代だという。なかなかイキな計らいだ。

人数が多いので2班に分かれて行動。文京区の案内の方と共に、まずは光源寺の大観音を参拝して東都六地蔵のうち第二番の地蔵を訪れる。現存するのはこと西日暮里の浄光寺だけだそう。竣工になった大学の職員住宅のそばの本郷図書館の森鷗外記念室を覗き、鷗外旧居跡の観潮楼に立ち寄り。当時は2階から東京湾が望めたので、この名が付いたという。そこから敷下の道に下り、木がうっそうと繁った小道を進む。このあたりは昔そのまの面影が残っているのだそうだ。

猫の置き物を配した夏目漱石旧居跡を横に見て、願行寺からS字坂を下り根津神社へ。ここで案内人から面白いことを教えてもらった。この水飲み場の土台の裏に森林太郎(鷗外)の名が刻んである。これは鷗外が日露戦争の勝利を祈念して奉納した証しなのだという。根津神社の広大な敷地内を散策して午後4時解散。

その後、無理を言ってすぐ近くの岡場所(幕府非公認の場)に案内してもらった。江戸時代は独身男が多かったため遊び場所が方々にあったのだ。まったく羨ましい。それにしては神社のすぐ近くという場所があったということ、いかにおおらかな時代であったかということがうかがえる。 林家 時蔵(S47・国文卒)



三多摩支部女性の会で高尾山へ

昨年8月2日「高尾山薬王院で精進料理を楽しむ会」のお誘いを受け、今井さん、吉田さんと山田が参加。周知のように薬王院第32世貫主は校友の大山隆玄師。あいにく留守だったが、参事の原秀誠さんが法話を。隆玄師の計いで歓待され、おみやげも。



法話をいただいた原 秀誠参事

地区活動



三須さんを偲ぶ葛飾白山会

平成20年7月12日(土)柴又帝釈天の門前「亀家本舗」において、葛飾白山会の会長であられた「三須さんを偲ぶ葛飾白山会」が開催された。

当日は、特別ゲストとして御夫人の三須美智子さんをお招きし、お線香と生花をお贈りした。会には雨水会の方々を含め29名の仲間が集い、三須さんの遺影を前に生前の三須さんとの思い出を語り合った。

歌が好きだった三須さんが歌合戦に出場されたときのテープを聞いたり、松丸さんのギターの弾き語りによる数々の歌の披露など、明るくて、知的なユーモアの持ち主であった三須さんを明るく、楽しく偲んだ。合掌!

美智子夫人からは、ご挨拶と共に感謝の言葉をいただいた。また、葛飾白山会の新しい会長に校友会城東支部前支部長の大滝恵三氏が出席者の承認を得て就任された。

松岡正俊(S47・建築卒)

有志による年忘れミニ葛飾白山会

7月の三須会長を偲ぶ会、9月の高田さんを祝う会と、昨年恒例の会は見送ることにしていたが、「それでは寂しい」との声に応え、急遽いつもの12月23日、柴又の亀家本舗(岩崎社長S41・経営卒)で有志によるミニ葛飾白山会を開催。雨水会4名を含む14名が集まった。

定番の全員発言では、大学職員・野口正生さんの就職や入試状況の話、直前の箱根駅伝の予想などに花が咲いた。 大滝 恵三(S35・経済卒)

隅田川花火大会を楽しむ



平成19年「国際観光専攻」大学院を卒業し、城東支部会員として初めてのイベントが、この「隅田川花火大会」だった。昨年7月26日、ういんくでの役員会後、徒歩で橋場の小幡さんビル屋上をめざす。小幡幸雄さんは雨水会城東支部の元支部長、イベント・相乗り入れて気の置けない仲間。しかもご子息の代わりには支部活動にもたびたび顔を見せてくれる。

屋上にはすでにそのご子息や友人10数名が盛り上がり、こちらも浅窪支部長以下20名が負けじと盃を重ねる。「ドドーン」と始まった花火、屋上からの優雅で風流な江戸情緒を会員皆で共有できた、すばらしいひと時だった。

水野盟三(H19・院国際観光)